



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raja

ラジェンドラ・K. サブー
1991~1992年度 R I 会長

ロータリー財団月間

1991. 11. 22 (金) 第197回例会
1. 点 鐘
 2. ロータリーソング「それこそ1977」
 3. 「四つのテスト」唱和
 4. 食 事
 5. 会長の時間
 6. 幹事報告
 7. 各委員会報告
 8. 会員卓話 (猿渡 篤彦君)
 9. 点 鐘

第198回例会記録

(1991. 11. 15)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん今日は、本日は第198回例会です。

1991~1992年度国際ロータリー・第2730地区大会は、11月9~10日の2日間、「ひろげよう、友愛と奉仕の翼を！」を大会テーマとし、延岡東RCをホストに、延岡RC、延岡中央RCをコ・ホストに、宮崎知事松形祐亮氏、延岡市長早成隆彦氏を来賓に、国際ロータリー会長代理佐藤千寿氏ご夫妻をはじめ韓国より第3660地区ガバナー朴 炳奎氏ほか11名、国内より第2510地区ガバナー夫人佐藤信子さんほか21名、地区内より27名その他特別参加として英国スコットランドの第1010地区よりG. S. E. チームメンバー交換学生、米山奨学生、ライラ、インターアクト等、地区内56RC、ロータリアンの登録数の合計1759名参加の下に、県北延岡の地に

おいて有史以来初めて開催されました。

この地区大会を開催するに当っては、井上日出男ガバナーをはじめ、延岡市内3RCが一丸となり、たびたび協議会を開き、涙ぐましい努力を払われ、また、ご夫人方の心温まるご協力があり、極めてスムーズに、しかも盛大に大会が運営され、無事終了できましたことに対して、私達ロータリアンは深甚の感謝の意を表すものであります。ロータリーの友情の輪が大きく拡がり、印象に残る大会となりました。

当クラブより、児玉武文君・鈴木正敏君・佐野 保君・池田仁志君・岩切正司君・神宮寺利夫君・正岡文郁君・藤堂孝一君・柳田光寛君・僕と家内の計11名が参加しました。皆さんには大変お忙がしいところ、「超我の奉仕」を發揮していただきまして本当に有難うございました。やはり、地区大会は年一度のいわば「ロータリーの祭典」です。すばらしい雰囲気と十分味わいながら、国際ロータリーを偉大な組織で支えている仲間であるという誇らかな連帯感を再認識する場でもあります。

次年度は鹿児島市城山観光ホテルに決まりましたので、皆さん事情の許す限り参加することに決議いたします。今回の地区大会の詳細の内容につきましては、後日大会記録誌が発行されることとなりますので、とやかく申し上げる必要もないかと存じますが、R I 会長代理佐藤千寿氏から職業奉仕の倫理について詳細にアドレスをいただきました。宮崎医科大学田上 克教授の「ロータリー財団と周産期医学」は、出産

事務局 〒880-03 宮崎県宮崎郡佐土原町大字上田島20(株)宮崎食品サービス内 TEL 0985-73-0044

会長 濱田松太郎・副会長 児玉武文・幹事 鈴木正敏・会計 藤堂孝一・会報責任者 垂水敏雄

児の死亡率が南九州は全国最高（25%）であったのを、周産期医学のめざましい進歩により現在9%まで減らすことに成功した話であり、また五つ子をとりあげた折りの苦心談、森 瑤子先生の「心のおしゃれ」、G. S. E. バトリック・ラフリンさんの英国スコットランドの事情について、そしてロータリー財団学生山本武之さんのカナダ留学レポート等どれ一つとっても印象に残る感銘を受けました。今回の地区大会が、ロータリーの発展と奉仕の翼を広げることにより実りあるものとして、国際理解と友情の輪がさらに拡大したことを感謝いたします

次はロータリー財団75秒卓話です。第10週は、「米国の地区のWCSによるプレゼントエクアドル在住のオハイオ州の少女の生命を救う。」です。

コロラド州とワイオミング州の第5440地区のロータリアンは、1989年にエクアドルの保健所にCATスキャナーを贈りましたが、その時はエクアドル人の生命を守るためにそうしたのでした。いかにもその通りでした。予想できなかったのは、そのスキャナーが米国からエクアドルに来ていたロータリー交換学生の生命も救うことになるのでした。オハイオ州ストルーザースのカシー・ゲリエロさんは、エクアドルのポトビエホにいますとき、トラックの後部から落ちて頭蓋骨を骨折しました。カシーは、CATスキャナーが設置されているオーブワールドワー・ルーア・モレイラ診断センターに運び込まれました。医師はカシーの頭の負傷を診断し、適切な手術をし、脳の凝血についても治療することができました。その時カシーは、スキャナー設置に至るまでの経過を知らませんでした。彼女は人々から聞きました。CATスキャナーがロータリアンからポルトビエホに寄贈されたいくつかの医療品の一つであることを。

スキャナーは、第5440地区がロータリー財団同額補助金、米貨11,200ドルの援助を得て、世界社会奉仕プロジェクトとして寄贈

し、輸送したものでした。よく言われることですが、私たちの世界は案外狭いものです。また、ロータリーとロータリー財団を通じて相互に関連のある世界なのです。

続いて第11週の卓話です。「財団の新しい夢……ポリオの制圧だけでなく、撲滅。」についてです。

ロータリー財団のポリオ・プラス・プログラムは1990年に著しく発展しました。財団の管理委員会は、「新しい夢見て……ロータリーは秘意をつくる。」と題する新声明を採択しました。管理委員会が言っている新しい夢とは、ポリオ制圧だけでなく、ポリオ撲滅という夢です。保健の専門家でない私たちは、ポリオ制圧と撲滅はどう違うのかと疑問に思うかも知れません。ポリオ制圧は開発途上世界の1歳未満の子どもの少くとも80%に予防接種をすることを意味します。この結果、ポリオの症例はかなり減りましたが、一部の子どもたちはやはりポリオに感染します。保健の専門家から成る国際委員は、一つの国からポリオが撲滅されたと証明する前に達成しておく具体的基準を定めました。たとえば、新しい症例が発見されることなく経過する期間について定めています。アメリカ大陸では1990年のポリオの症例は僅か15件ですので、4年以内にポリオの撲滅ができればよい。ロータリーは、ポリオ・プラスを通じて西暦2000年までに、ポリオを見ない世界を見ようという世界保健機関と共通の目標を抱いています。政府、国際機関や他の民間ボランティア団体の絶えざる協力と努力を得て、ロータリーの新しい夢が実現されます。「西暦2000年までにポリオのない世界を」という夢です。

幹事報告 鈴木 正 敏

日向東RCの11月19日の例会場は大王谷野球場隣り、延岡東RCの11月25日の例会場は「宮崎県栽培漁業センター」に変更です。

出席報告 神宮寺 利 夫

会員数19名、出席者数19名 100%
ビジター 西都RC 関 師 鎮 雄 君

(以下次号に続きます)